

第1節 令和4年度の防衛力整備

令和4(2022)年度の防衛力整備は、宇宙・サイバー・電磁波といった新領域における能力、海空領域における能力、多様な経空脅威へ対処する総合ミサイル防空能力、スタンド・オフ防衛能力、機動・展開能力、弾薬の確保や装備品の維持整備など、必要な防衛力を大幅に強化し、多次元統合防衛力を構築することとしている。

あわせて、防衛分野での技術的優越の確保のため、ゲーム・チェンジャーとなり得る技術などの研究開発や防衛産業基盤を強化するとともに、人的基盤や、日米同盟・諸外国との安全保障協力も強化することとしている。

この際、令和3(2021)年度から防衛力強化を加

速すべく、令和4(2022)年度当初予算に計上する予定であった事業を前倒して実施することとし、令和3(2021)年度補正予算及び令和4(2022)年度当初予算を「防衛力強化加速パッケージ」と位置づけ、一体として編成している。

また、既存の予算・人員の配分に固執することなく、資源を柔軟かつ重点的に配分し、さらに、あらゆる分野での陸海空自衛隊の統合を一層推進し、縦割りに陥ることなく、組織及び装備を最適化する。

加えて、格段に厳しさを増す財政事情などを勘案し、一層の効率化・合理化を徹底する。

参照 図表Ⅱ-4-1(令和4(2022)年度防衛力整備の主要事業(領域横断作戦に必要な能力の強化における優先事項))



令和4年度防衛力整備

図表Ⅱ-4-1

令和4（2022）年度防衛力整備の主要事業（領域横断作戦に必要な能力の強化における優先事項）

獲得・強化すべき能力	概要
宇宙領域における能力	<ul style="list-style-type: none"> ○SSA（宇宙状況監視）衛星（宇宙設置型光学望遠鏡）の整備 ○SSAレーザー測距装置の取得 ○SSAシステムなどの整備 ○宇宙を利用した情報収集能力などの強化 ○宇宙作戦群の改編 など
サイバー領域における能力	<ul style="list-style-type: none"> ○サイバー関連部隊の体制の強化 ○サイバー人材の確保・育成 ○サイバーに関する最新技術の活用 ○システムの強靱化 など
電磁波領域における能力	<ul style="list-style-type: none"> ○わが国に侵攻する相手方のレーダーなどを無力化する能力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンド・オフ電子戦機の開発 ○わが国に対する侵攻を企図する相手方からの電磁波領域における妨害などに際して、その効果を局限する能力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・電子防護能力に優れたF-35A戦闘機8機及びF-35B戦闘機4機の取得 ○電磁波領域における将来技術の導入に向けた研究 <ul style="list-style-type: none"> ・高出力マイクロ波（HPM）照射技術の実証 ○電磁波に関する情報の収集・分析能力の強化 など
海空領域における能力	<ul style="list-style-type: none"> ○自動警戒管制システム（JADGE）の能力向上 ○掃海・輸送ヘリコプター（MCH-101）の取得（1機） ○SH-60K哨戒ヘリコプターの救難仕様改修 ○護衛艦（2隻）、潜水艦（1隻）、掃海艦（1隻）、海洋観測艦（1隻）、音響測定艦（1隻）の建造 ○「いずも」型護衛艦の改修 ○偵察航空隊（仮称）の新編 ○わが国主導の次期戦闘機の開発 など
スタンド・オフ防衛能力	<ul style="list-style-type: none"> ○12式地对艦誘導弾能力向上型の開発 など
総合ミサイル防空能力	<ul style="list-style-type: none"> ○超音速滑空兵器探知・追尾の実証にかかる調査研究 ○標準型ミサイルSM-6や、能力向上型迎撃ミサイル（PAC-3MSE）の取得 ○将来超電磁砲の研究 など
機動・展開能力	<ul style="list-style-type: none"> ○16式機動戦闘車の取得（33両） ○輸送船舶の取得（2隻） ○石垣島における部隊配置 ○抑止力及び対処力の向上を図る機動展開訓練 など
無人機の活用・無人機への対処	<ul style="list-style-type: none"> ○小型の攻撃型UAVからの防護にかかる研究 ○無人機雷排除システムの整備 など
持続性・強靱性	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的な運用に必要な各種弾薬の取得 ○自衛隊施設の老朽化対策及び耐震化対策の推進 ○装備品の維持整備に必要な経費の着実な確保 など